

報道発表資料

[大阪府トップ](#) > [報道発表資料](#) > 詳細

パーフルオロオクタン酸(PFOA)に係る水質調査結果について(第10報)

代表連絡先

環境農林水産部 環境管理室環境
保全課 化学物質対策グループ
ダイヤルイン番号:06-6210-9578
メールアドレス:[kankyokanri-
g09@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kankyokanri-g09@sbox.pref.osaka.lg.jp)

提供日

2012年9月20日

提供時間

14時0分

内容

大阪府では、8月にふっ素を含む有機化合物の一種であるパーフルオロオクタン酸(PFOA)について、神崎川水域の河川水及びその周辺の地下水の水質調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

本調査は、神崎川水域の河川水及びその周辺の地下水においてPFOAが高濃度に検出されたことから平成19年度から実施しているものであり、今回は6年目となります。

調査の結果、河川水(4地点)及び地下水(2地点)中のPFOA濃度のそれぞれの最大値は、過去6年間の調査結果において最も低い濃度であることが確認されました。

次回は平成25年8月に調査を行います。

※PFOAの用途・分解性等については別紙をご覧ください。

1. 調査結果

地点番号	地点名	試料採取日	PFOA濃度(μg/L)
1	中央水みらいセンター放流水	H24.8.2	0.099
2	安威川 中央水みらいセンター放流前地点		0.0079
3	中央水みらいセンター放流後地点		0.11
4	新京阪橋		0.089
5	神崎川 新三国橋		0.054
6	地下水 摂津市一津屋 井戸	H24.8.3	5.4
7	摂津市南別府町 井戸		8.8

※ 分析機関 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

○安威川上流域(調査地点2)のPFOA濃度は、0.0079マイクロg/Lであり、平成21年12月から平成23年8月までの8回の調査結果(0.0056から0.020マイクロg/L)と同程度でした。また、本地点の濃度は河川水の調査4地点中、最も低い濃度でした。

○安威川、神崎川(調査地点3から5)のPFOA濃度の最大値は0.11マイクロg/Lであり、これまでの調査毎の最大値(0.16から7.5マイクロg/L)よりも低い濃度であることが確認されました。

○同水域でPFOAを取り扱っているダイキン工業株式会社淀川製作所からの排水は、公共下水道を經由して、安威川流域下水道中央水みらいセンターから放流されています。その放流水(調査地点1)のPFOA濃度は、0.099マイクロg/Lであり、上記8回の調査結果(0.15から1.2マイクロg/L)よりも低い濃度であることが確認されました。

○地下水(調査地点6及び7)のPFOA濃度の最大値は8.8マイクロg/Lであり、これまでの調査毎の最大値(13から39マイクロg/L)よりも低い濃度であることが確認されました。

※これまでの調査結果及び調査地点の位置は、それぞれ、別表及び別図をご覧ください。

2. 今後の対応

○次回は、平成25年8月に神崎川水域において水質調査を行います。

○ダイキン工業株式会社淀川製作所は、これまで処理後の排水の分析頻度を上げ、処理装置の維持管理を強化するとともに、平成22年度におけるPFOAの取扱量を平成12年度と比べ95%以上削減しています。さらに、平成24年末までにはPFOAの使用を全廃するとしており、それまでの間、排水中

	のPFOA濃度の監視を継続するとしています。府は、引き続き同製作所の取組状況を把握するとともに、必要に応じて指導を行います。
添付資料	(別表)PFOA調査結果 (Excelファイル、84KB)
	(別表)PFOA調査結果 (Pdfファイル、69KB)
	(別図)PFOA調査地点図 (Wordファイル、389KB)
	(別図)PFOA調査地点図 (Pdfファイル、148KB)
	(別紙)PFOAについて (Wordファイル、29KB)
	(別紙)PFOAについて (Pdfファイル、67KB)
資料提供ID	11313

[報道発表資料のトップへ](#)

[ページの先頭へ](#)